

平成11年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 えだまめ 「滝系C11」		
[要約] えだまめ「滝系C11」は大莢で莢色濃く、良食味の中生品種である。					
キーワード	えだまめ	滝系C11	品種	園芸畑作部 野菜畑作研究室	

1. 背景とねらい

えだまめは本県野菜の中で重点品目の一つであり、水田転作の強化もあって推進が図られている。また、市場流通上は莢の大きさや充実性が求められているが、現在、これに合致した8月4～5半旬収穫の中生優良品種は見られない。

「滝系C11」は大莢で莢色が濃いことから、外観品質が優れ、省力収穫も可能であるなど優れた特性を持ち、中生の一般向け品種として有望であるので、その特性を紹介する。

2. 技術の内容

(1) 来歴： えだまめ「滝系C11」は昭和61年に岩手県立農業試験場において、中生で良食味の「ふくら」を母親、晩生で大莢、多収の「錦秋」を父親として交配し、その後代より育成した系統である。

- (2) 特性：
 ア 胚軸色は緑、葉の形は円葉、花色は白。
 イ えだまめ収穫期の毛茸色は白色。
 ウ 主莖長は「ふくら」より長く、分枝数は少ない(表1、2)。
 エ 着莢数は「ふくら」より少く、着莢は疎(表1、2)。
 オ 成熟時の種皮色は緑。
 カ 莢の大きさは「錦秋」並の大莢(表3)。稀にひょうたん状の軽い変形莢が発生する。
 キ 開花期は「ふくら」より約2日遅い(表1)。
 ク 収穫期は「ふくら」より約8日遅い中生の晩。5月中～下旬播種の場合、県中南部での収穫期は8月中～下旬である(表1、2)。
 ケ 稔実莢数は少ないものの一莢平均重が「ふくら」に優り、中生品種としては多収である(表1、3)。
 コ 完全莢率、多粒莢率とも高い(表1、2)。
 サ 莢色が濃く、甘みもあり、食味は「ふくら」より優る(表5)。
 シ ダイズ黒根腐病に弱(表4)。

3. 普及上の留意事項

- (1) 栽植様式は一般の中生品種と同様に畦幅を140cmとし、9224Bマルチを使用して行う。
 (2) 収穫適期を過ぎると外観品質が低下するので適期収穫に努める。

4. 技術の適応地帯

- (1) 適応地域：高標高地、高冷地を除く県下全域
 (2) 適応作型：マルチ栽培
 (3) 普及見込み面積：20ha

5. 当該事項に係る試験研究課題

【野菜2】-1-(1)-イ 市場性の高い岩手銘柄えだまめ品種の育成

6. 参考文献・資料

- (1) 平成6、8年度畑作に関する試験成績概要書 岩手農試技術部
 (2) 平成9～11年度野菜関係試験成績書(未定稿) 岩手農研センター

7. 試験成績の概要

表1 生育時期、生育及び収量(北上)

品種 系統名	試験年次 (年)	播種 (月.日)	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	主茎長 (cm)	一次 分枝数	稔実莢数		完全莢率 (個数%)	多粒莢率 (個数%)	完全莢収量 (kg/a)
							(個/個体)	(個/m ²)			
滝系C11	H 9	5.15	7. 6	8.22	57	5.2	55	327	73	37	89
	H10	5.18	7. 9	8.24	63	4.4	53	315	68	44	87
	H11	5.21	7. 8	8.21	57	5.1	74	352	67	52	86
	平均	5.18	7. 8	8.22	59	4.9	61	331	69	44	87
ふくら(標)	H 9	5.15	7. 5	8.14	29	7.0	73	434	73	23	98
	H10	5.18	7. 8	8.17	47	4.9	62	369	55	37	61
	H11	5.21	7. 6	8.11	53	7.6	101	481	62	49	76
	平均	5.18	7. 6	8.14	43	6.5	79	428	63	36	78
錦秋	H11	5.21	7.21	9.17	86	6.7	91	433	62	13	122

H9~10: 畦幅140cm × 株間24cm × 2条(595株/a)

H11: 畦間140cm × 株間30cm × 2条(476株/a)

完全莢: 1莢に2粒以上の充実した子実粒を有し、空のない莢(市場出荷時のA品に相当)

表2 生育時期、生育及び収量(滝沢)

品種 系統名	試験年次 (年)	播種 (月.日)	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	主茎長 (cm)	稔実莢数		完全莢率 (個数%)	多粒莢率 (個数%)	完全莢収量 (kg/a)
						(個/個体)	(個/m ²)			
滝系C11	H 6	5.14	7.10	8.14	54	54	321	73	53	80
ふくら(標)	H 6	5.14	7. 8	8.11	46	88	524	56	49	81

畦幅140cm × 株間24cm × 2条

表3 3粒莢の大きさ及び色調

品種 系統名	試験年次 (年)	莢の大きさ				莢色			
		重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	L*	a*	b*	X
滝系C11	H10	5.2	73	15	10.2	52	-18	32	97
	H11	4.6	68	14	9.7	54	-16	30	104
	平均	4.9	71	15	10.0	53	-17	31	101
ふくら(標)	H10	4.3	67	13	9.8	54	-16	31	106
	H11	3.1	60	12	8.6	56	-16	30	106
	平均	3.7	64	13	9.2	55	-16	31	106
錦秋	H11	5.6	70	15	10.5	54	-15	32	116

$X = L^* \times b^* / |a^*|$ Xが小さいほど莢色は濃い

表4 大豆立枯性病害(ダイズ黒根腐病)特性検定結果(H8)

品種系統名	発病株率(%)	発病度	ハロソイ対比	判定
滝系C11	100	2.46	1.151	弱
ナンブシロメ	97.2	1.40	0.504	やや弱

場所: 岩手農試ダイズ連作土壌搬入圃場

表5 食味(H11)

品種系統名	外観(形)	外観(色)	甘み	香り	総合
滝系C11	2.9	3.3	3.0	3.1	3.1

蒸煮後、「ふくら」を基準(3)として
1~5で評価した(パネラー15人)